

須賀川市立義務教育学校「**稲田学園**」学園だより

とう oun **稲雲**

令和4年 5月17日発行

発行者：校長 小貴 崇明



○**稲田学園運動会～碧天(あざり)の下(もと)で輝け稲田の子～**

天候の関係で1日遅らせ、令和4年度稲田学園運動会を5月15日（日）に開催しました。コロナ禍ということもあり、感染症対策のため午前中だけのプログラムにし同居家族のみの入場としましたが、『碧天の下で輝け稲田の子』というスローガンどおり、元気な子どもたちが生き生きと輝きながら演技・競技する楽しい運動会になりました。

また、当日は朝早くから PTA 役員の皆様に会場作りや運動会運営に参加いただき、本当に助かりました。お世話になりました。



雨は降らず「碧天」でした



応援合戦で開会式は最高に盛り上がりました



ラジオ体操で準備運動



かけっこや稲田タイフーンでは競ったレースばかり



1位のワッペンうれしいな



1・2年かわいいダンス



マリオ？も登場



堂々たる鼓笛演奏



恒例の中学生玉入れ



運動会の華「リレー」

○**岩瀬支部中体連陸上大会～今年も無観客で開催～**

5月18日（水）に、鏡石町鳥見山陸上競技場において岩瀬支部中体連陸上競技大会が開催されます。県大会・東北大会という上位大会への進出をめざして熱い戦いが展開されます。残念ながら、県のコロナ対応のレベルが「2」のままとなっており、今年も無観客での開催となってしまいました。保護者の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

○稲田学園応援団に引き継がれてきた「稲田魂」

5月11日（水）に、岩瀬支部陸上競技大会選手壮行会を開催しました。18日（水）に鏡石町鳥見山陸上競技場で行われる大会に向け、7年生以上の特設陸上部は、朝と放課後の練習、競技場練習などを重ねてきました。稲田学園からは、30名の選手が参加の予定です。校長からは、元気な声でいつでも、何度でも、誰とでもあいさつするという「いなだあいさつ」を実践することが、実は大会での活躍につながるという話をしました。生徒代表の激励の言葉では、自分のベス



トが発揮できるよう、投げ跳び走りきってほしいとの激励がありました。

応援団も選手同様、短い準備期間の中でしっかり練習し本番を迎えました。大声での集会を控えている関係で、一般生徒は手拍子による応援でしたが、応援団のリードにより「フシ、フシ稲田」や「3, 3, 7 拍子」などを堂々で行うことができました。今年度1回目の壮行会でしたが、伝統の「稲田魂」を感じる壮行会となりました。

○他校にはない「児童生徒会」総会

5月6日（金）に児童生徒会総会を開催しました。児童生徒会本部及び各委員会、各部活動の今年度の活動方針や活動計画、学校生活上の課題や疑問について質問や意見が積極的に出される立派な総会でした。

前期課程高学年の5・6年生も参加する児童生徒会こそ、本校のような義務教育学校の特色ある自治活動であり、今回の総会は小学生のうちに中学生レベルの民主主義のあり方や議事の進め方を実体験として学ぶすばらしい機会であると考えています。特にこのような総会が初めてだった5年生も、真剣に発言者の話に耳を傾けていました。



★言葉と生きる(3) 「這(は)えば立て 立てば歩めの親心」

赤ん坊がハイハイし始めると、親は一日も早く立つようにと願い、立つようになると今度は早く歩みはじめることを願うという、幼い子どもの成長を待ちかねる親心を表現した言葉です。

我が子の成長を願う親の気持ちは、もちろん赤ちゃん時代の後も続くでしょうから、「歩めば走れ、走れば跳べ」とか、「走れば、投げろ・打て」など運動系の成長を願う親もいれば、「立てば、話せ」とか「話せば、読み書き計算…」と頭脳系の成長を願う親もいるだろうし、「優しく育ててもらえればそれだけで」という親もいるでしょう。しかし、親が思っている通りに子の成長が順調にいくとは限りませんし、親の期待とは別のところが育っていくこともあります。それが人間です。親に依存する幼い子どもが親の期待や束縛から解放され自分の伸ばしたいところを見つけようと奮闘する9年間、それが稲田学園で経験するような義務教育期間だと思えます。私の思いは「這えば立て、立てば歩め、そして歩めば学べ、学べば花開け」です。